



学校教育目標

「開拓」創造・協力・根気・健康

西陵だより



学校だより
No. 1
令和8年4月9日
札幌市立西陵中学校

「多・長・根」の視点と「いいかげん」のススメ

校長 横川 広志

<自己紹介&自戒を込めて保護者の皆様へ>

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。3年前に定年を迎えましたが、再任用というチャンスを頂き、本校に着任、3年目を迎えました。その当時に入学した新1年生のみなさんが今年は最上級生。時の流れの早さに若干焦りつつも、今年も西陵中学校で過ごせることに大きな喜びを感じています。これまでの教育現場での経験をできる限り子どもたちの未来のために還元していく所存です。同時に「子どもたちのニーズは、私の経験の中にはないかもしれない」という自分への問いも忘れずに子どもたちと共に学ぶ存在でありたいです。本校教育目標である「開拓」に込められたチャレンジ精神を自ら具現すべくエネルギーに生きています。どうぞよろしくお願い致します。

私は、これまでの経験の中で様々な学校の多くの中学生に出会い、そして、義務教育を終えて巣立っていく姿を見守ってきました。私が授業、学級、生徒会、部活動などで深く関わった生徒の中には今も交流が続いている卒業生もいます。新卒当時の卒業生たちは、すでにアラフィフです。どの生徒も再会すると中学生の時から想像もできないほど大きな成長を遂げていることに驚かされます。つくづく思われるのは、生徒は我々の想像を遥かに越える無限の可能性に満ちているということです。

保護者の皆様をお願いしたいことは、お子様一人ひとりの中にある可能性を信じ続けてほしいということです。子どもたちの成長の大きさは3年間で見ると明らかで3年生と1年生を見比べると一目瞭然。とはいえ、私も我が子が中学生だった頃を振り返ると、我が子を毎日見て「さっぱり成長しないな～」と感じてしまうことも多々ありました。さらに思春期の子どもたちは「成長どころか逆に悪くなっているのでは？」と思わされることさえ少なくありませんでした。

そんな時、私の視野を広げてくれたのは、「多・長・根」という言葉でした。これは、私が若かりし頃、先輩教師から教わった言葉です。「生徒を見るときは多面的・長期的、根本的、3つの視点で判断する」というものです。日常よくある例として、家ではわがままで自己中な子どもでも学校では友達思いでまとめ役だったり（多面的な視点がないと見落としがち）、1年生で苦勞していたことが3年生では当たり前できるようになっていたり（長期的な視点があるとゆったりと待てる）、見た目には失敗を繰り返しているように見えても人間的には成長が感じられたり（根本的にはプラスと理解できる）など、見落としがちなのよさに気づけるようになりました。この視点をもつことは保護者の皆様にとっても、お子様にとっても幸せなことだと思います。

しかしながら、我が子となるとどうしても近視眼的になるのが親というもので、実際私もそうでした。生意気な態度に腹も立ちます。でも、腹が立つと視野が狭くなりますから、簡単に怒ってはダメです。

「多・長・根」に加えて、少し距離を置いて「いいかげん」になることも併せてお勧めします。「いいかげん」は「良い加減」です。子どもが何かを始めたら、「なんだか要領悪いな～」と思っても手出し、口出しをせず、距離を置いて黙って見てみましょう。まずは、何かを始めたことを認めましょう。失敗もさせてあげましょう。（15年以上も前に中学生の親だった私のつぶやきです…）

さて、令和8年度が新生114名を迎え1学年4学級、2学年3学級、3学年4学級、特別支援学級3学級の計14学級でスタートしました。明るい挨拶、素直な表情、心のこもった歌声があふれる本校の雰囲気大好きです。本年度も引き続き、本校の教育活動への保護者の皆様の深いご理解とご協力のほどどうぞよろしくお願い致します。